

膀胱がんの術前化学療法の効果予測についての研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2020年3月16日 ~ 2024年3月31日

〔研究課題〕 免疫組織化学的手法による膀胱癌に対する膀胱全摘および術前補助化学療法の効果予測のためのスコアリングシステムの開発—多施設共同研究

〔研究目的〕 帝京大学医学部附属病院泌尿器科では、泌尿器疾患の原因を明らかにし、正しく診断し、より有効な治療法を開発することを目標として、さまざまな研究を行っています。このような研究活動の基礎になるのが、実際に当科を受診された患者さんの診療録（カルテ）の情報と過去の試料です。患者さんの診療録に記録されている各種の臨床情報、検査結果、治療内容と経過などの医学情報と、保存されている検体の残余試料は、病気の解明のために大変貴重なものです。そこで、当科では、過去に泌尿器科を受診された患者さんを対象として、これらの情報を解析し、患者さんの診療に役立つ情報を取得し、医学の発展に貢献したいと考えています。

膀胱筋層に浸潤した膀胱がんに対しては、術前化学療法と膀胱全摘術をおこないますが、その効果を予測する因子は未解明です。本研究では、当院を含めた複数の施設が共同で実施し、術前化学療法の効果を予測する因子を探索することにより、今後の治療の参考となる知見が得られると考えています。

〔研究意義〕 術前化学療法の効果をあらかじめ予測できるようになれば、化学療法は有効と予想される患者さんのみに実施し、無効な患者さんには実施しないという選択ができる可能性があります。

〔対象・研究方法〕 2000年1月1日から2019年8月31日までの期間に帝京大学医学部附属病院泌尿器科で膀胱全摘術を受けられた膀胱がん患者さんが対象です。血液検査・尿検査・レントゲン画像データ、手術など治療の所見、再発の有無などの経過について診療録（カルテ）から調査します。保存されている摘出組織検体を用いて染色を行い、たんぱく質の発現を調べます。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院を含めた4施設（主管：市立奈良病院泌尿器科）

〔個人情報の取り扱い〕 本研究は、過去の診療録調査と、保存されている過去の検体の残余試料だけを使用する研究ですので、患者さんの生命・健康に直接影響を及ぼすことはありません。氏名・生年月日・ID番号などの個人情報はすべて匿名化されてから解析されますので、個人情報がもれることはありません。研究成果は、医学の発展のために学会発表や学術論文発表などをさせていただくことはありますが、その際も個人の特定可能な情報はすべて削除いたします。また、研究対象に該当するか否かにより、実際の診療内容に影響はすることはありませんし、研究にご協力していただけない場合でも診療上の不利益を受けることはありません。また、ご協力いただける場合でも謝金等は発生いたしません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 主任教授 中川徹

研究分担者： 講師 山田幸央、高橋さゆり、金子智之、木村将貴

所属： 帝京大学医学部附属病院泌尿器科

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL : 03-3964-1211 (代表) [内線 33709]